

石龕寺  
(丹波市)

丹波市は兵庫県の中央東部に位置し、緑の山に囲まれた豊かな自然と歴史に育まれたところです。また、古来より都の後背部、山陽、山陰に通ずる交通の要衝にあたることから、数多くの文化財や伝説が残っています。丹波市山南地域は尊氏のエピソードが数々残されている、尊氏ゆかりの地

です。なかでも、特にゆかりの深いお寺が石龕寺で聖徳太子の開創と伝える古刹です。観応2年(1351年)弟直義等との戦いに敗れた尊氏は子義詮に仁木兄弟等2千余騎を添え「丹波の井原石龕に留める」と太平記巻29にあります。

また観応元年(1350年)と文和3年(1354



鐘楼

年)の尊氏の御教書が寺に残っていて尊氏等との関係が深かったことを物語っています。また、中世この地方の豪族であった久下氏は尊氏が亀岡篠村で反北条の兵を挙げた時以来足利氏と行動をともしました。平成6年石龕寺では、尊氏が京都の東寺に寄進した梵鐘に模して梵鐘を新鑄、さらに東寺の鐘楼を参考に山上に鐘楼を造立、足利氏ゆかりの寺宝が増えました。石龕寺はもみじの



石龕寺

美しい寺として知られ、毎年11月の第3日曜には「足利氏ゆかりの石龕寺もみじ祭」が開催されます。